

事業番号	363
------	-----

平成24年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	成人祝賀式開催事業						担当部	教育委員会事務局							
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	生涯学習課							
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	青少年育成係							
	総合計画 分野別計画	主目的	4 教育文化		17 生涯学習		2 住民の主体的な活動を支援する									
		副目的														
	予算区分	款	10		項	5		目	4		大	5		中	1	
	根拠法令・個別計画	生涯学習のまちづくり基本構想・基本計画														
	実施・運営方法 ※費用合計に占める 経費の内訳(割合)	直接実施・ 運営	28 %			委託	72 %			助成	0 %					
	目的 (対象をどの様な 状態にするのか)	新成人を対象に成人式式典を開催し、社会の一員としての新成人の自覚の向上を図る。														
	内容 (手段)	<ul style="list-style-type: none"> 各中学校から推薦された代表者や、公募による新成人が運営委員となる運営委員会を開催し、新成人による成人祝賀式を企画運営した。 第1回目に昨年の運営委員2～3人にも参加してもらい、企画する上の助言をもらった。 職員は、運営委員会及び、成人祝賀式がスムーズに企画運営できるよう、助言・支援をした。 運営委員会の様子をホームページに掲載して、式典の周知を図った。 成人祝賀式開催場所：パークアリーナ(アリーナ及びサブアリーナ) 運営委員会開催回数：9回 成人祝賀式終了後、運営委員に運営委員会や式典について、アンケート調査を行った。また、反省会として、運営委員に参加してもらい、次年度の資料とした。 応援職員に、式典の運営について意見をもらい、次年度の資料とした。 <p>【直接経費の内訳】消耗品費 42,820円、成人式運営委託料 4,290,290円</p> <p>◎24年度実施内容 23年度と同様に実施する。</p>														
受益者負担	無															

		単位	H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	4,428	4,469	4,334	4,664	
		正職員	従事者数	人	0.42	0.30	0.30	0.30
			人件費	千円	2,233	1,595	1,595	1,595
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計	千円	6,661	6,064	5,929	6,259	
	対前年比	%		91.0	97.7	105.5		
財源	一般財源	千円	6,661	6,064	5,929	6,259		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	委員会委員人数	人	目標		20	20	20
実績				19	20	18	
委員会委員参加率	%	目標		80	80	80	80
		実績		89	80	77	
績	成果指標名	単位		H21	H22	H23	H24
			成人式参加率	%	目標	75	75
			実績	70	75	72	
成人式参加者数	人	目標		1,283	1,293	1,152	1,177
		実績		1,200	1,300	1,100	

事業の自己評価	平成23年度の実施結果	事業の達成状況	平成24年1月8日(日)13:30~15:30、パークアリーナで実施。 対象者数1,536人中、出席者約1,100人、出席率72%。 第Ⅰ部式典、第Ⅱ部恩師からのビデオレター上映などのイベント、第Ⅲ部交流会を実施。 保護者の観覧席を設けたことで、保護者には好評であった。 参加率は、目標の75%にはいたらなかった。
		事業実施における課題等	運営委員は、毎年新成人から選出されるため、ノウハウの引継ぎ、蓄積が出来ない。 第1回委員会には、前年度運営委員も参加してくれるが、継続的な支援を受けられる体制づくりが必要。
		事業を縮小・廃止したときの影響	成人式は、全国のほとんどの市町村で開催されており、新成人やその保護者などが、二十歳の門出として式典を楽しみに待ち望んでいる。また、新成人を祝う事業が他にないことから、廃止すれば新成人としての責任や自覚が多少薄れるように思われる。
今後の事業の方向性	方向性の判定	現状維持	
	判定理由	本市の式典は、運営委員の協力もあり、落ち着いた雰囲気を実施され、新成人の良い思い出となっている。運営委員会方式による運営も、運営委員個人にとっても達成感を感じられる良い機会となっている。少子化の傾向は見られるものの、1,000人を超える参加者があることから、現状維持とした。	
	改善案等	昨年度委員に対して、2回目以降の委員会への参加を呼びかける。	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	現状維持	一次評価のとおり。